



2024年5月10日

各 位

会社名 株式会社イーディーピー
代表者名 代表取締役社長 藤森 直治
(コード番号：7794、東証グロース市場)
問い合わせ先 代表取締役副社長 兼 総務部長 高岸 秀滋
(TEL 06-6170-3871)

連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表及び中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2025年3月期第1四半期決算より連結決算に移行いたしますので、2025年3月期の連結業績予想及び中期経営計画につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 連結決算への移行の理由

当社は、2023年12月21日付「子会社設立に関するお知らせ」において公表いたしましたとおり、2024年1月16日付で子会社を設立いたしました。その後、2024年5月10日付『(開示事項の変更)「子会社設立に関するお知らせ」の一部変更のお知らせ』において公表いたしましたとおり、当該子会社について、2024年3月期は、金額的重要性の観点から連結子会社として取り扱わないことといたしました。2025年3月期第1四半期からは、金額的重要性の観点から連結子会社として取り扱うことといたしましたので、これに伴い、2025年3月期より連結決算へ移行いたします。

また、2024年5月10日付「当社及び当社子会社による子会社(孫会社)設立に関するお知らせ」において公表いたしましたとおり、2024年6月に、インドのグジャラート州に子会社を設立予定であり、当該子会社も連結子会社として取り扱う予定であります。

2. 2025年3月期連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円 銭)
通期	2,362	274	263	180	13.70

(注) 対前期比増減率については、比較する連結会計年度がないため記載しておりません。

3. 連結業績予想の概要

2024年1月に登記しましたエス・エフ・ディー株式会社(以下「SFD」といいます。)は、LGD(Laboratory Grown Diamond: 人工宝石)分野で種結晶ばかりでなく複数の製品を販売することを目指しています。また、当社はLGDメーカーが集中しているインドにおいて拠点が無いために、市場の状況の把握が難しかった状況を鑑み、その集積地であるグジャラート州に拠点を置く子会社である現

地法人を設立する計画です。このインド現地法人は、当社の製造する種結晶をインド市場において販売するとともに、SFDが販売する宝石への加工を行います。また、日常的にLGDメーカーとの接触を行うことにより、この市場全体の動向がリアルタイムで取得できるようになります。当社はこれによって、LGD市場への対応を臨機応変に決定することが出来るようになると考えられます。

SFDの本格的な活動は、このインド現地法人の活動がスタートすると同時に開始しますので、2025年3月期からは、当社は連結決算に移行し、SFD及びインド現地法人の活動を合わせて報告することとなります。

従いまして、上記の連結業績予想は、2025年3月期から連結子会社として取り扱うSFD及びインド現地法人の業績予想を織り込んだ数値であります。なお、今後は連結業績予想のみの開示を予定しております。

※2025年3月期の当社単体の業績予想は売上高1,650百万円、営業利益37百万円、経常利益29百万円、当期純利益53百万円となります。

4. 中期経営計画の策定について

(1) 中期経営計画の概要

上記のように、インド現地法人の設立によって、SFDが実質的に活動できるようになるのに伴い、SFDの売上が連結決算に計上されます。また、インド現地法人は当社から供給を受けて種結晶販売を行いますので、当社の売上にも反映されます。

これらを合わせ連結決算ベースの中期経営計画を策定しました。中期的なビジネス方針は、以下のよう計画しております。

- ①SFDは従来型デザインの宝石（ブリリアントカット等）を生産するとともに、新規デザインの宝石を開発・製造し、新たな市場を開拓します。新規デザインの宝石は、単位重量当たりの価格を低く抑え、今後大幅に普及が拡大するLGD市場の需要に適合することをコンセプトとします。
- ②SFDは日本での宝石加工をも行い、「Japan Made Diamond」として販売してまいります。日本及び東アジア地区では、日本ブランドの価値を創造できると見ており、当社で製造した原石を使って、このブランドを確固たるものにしてまいります。
- ③種結晶は、グジャラート州のインド現地法人が在庫を持ってインド市場に対し販売します。これによって、ユーザーの要望にきめ細かく対応できることから、当社種結晶の特徴である品質の良さを一層活かすことができると判断しています。
- ④LGD関係以外のビジネスは、当社が推進してまいります。ダイヤモンドデバイス開発が進むと共に、大型ウエハへの要求が高まっており、当社は、その開発を中心課題として取り組んでまいります。実用的なウエハやエピ成長基板を製造するために大規模な投資が必要となる場合には、デバイス関連製品を集約化し、市場の要求に合致する製品を集中的に製造することも検討いたします。

以上の中期的なビジネス方針に基づく中期経営計画で、2027年3月期には連結決算売上3,390百万円、営業利益560百万円、経常利益550百万円を目標としてまいります。

(2) 中期経営計画数値目標

項目	実績	中期経営計画		
	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
売上高 (百万円)	757	2,362	2,770	3,390
営業利益 (百万円)	△213	274	470	560
経常利益 (百万円)	△97	263	460	550
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	△111	180	340	390
1株当たり当期純利益又は1 株当たり当期純損失(△) (円)	△8.48	13.70	25.89	29.69

- (注) 1. 上記表の2024年3月期の業績(実績)は、当社のみ単体決算の数値であり、2025年3月期から2027年3月期の中期経営計画の業績(計画)は、当社及び当社連結子会社2社を含む連結決算ベースの数値であります。
2. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上